

広報させぼ 情報カレンダー 03. 5月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|--|----------------------|--------------------|--|--------------------------------------|----|--------------------|
| 毎月第1水曜 中小企業金融公庫出張相談 (13~15時、佐世保商工会議所) ※ 4月号・おもな行事予定中の4月16日は誤りで した。4月からは第1水曜だけの相談となります。 高工労働課からお詫びして訂正します。 | | | | 1 | 2 | 3 憲法記念日 |
| 毎月第2金曜 発明相談(10時~15時30分、市役所10階) | 4 | 5 こどもの日 | 6 | 7 中小企業金融 公庫出張相談 早岐茶市 ~9日 | 8 | 9 発明相談 |
| 11 ババママ・サン セットクルーズ | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 早岐茶市 ~19日 |
| 18 | 19 行政相談週間 ~25日 | 20 | 21 市立総合病院 の健康教室 | 22 無料出張相談 ~23日 | 23 | 24 |
| 25 サツキ展示会 ~6月1日 | 26 | 27 早岐茶市 ~29日 | 28 | 29 出前保育「みんな よっといでー!」 | 30 | 31 |
| 29 | 30 | 31 | ●6月のおもな行事予定 6/1 水道週間~7日、動植物園誕生祭、 デンタルフェスティバル 6/3 フィルムフェスティバル~30日 6/7 市中学校体育大会~9日、早岐茶市~9日 | | | |

テレホンガイド

- 救急・火災
 - 医療機関案内…………… ☎23-8199
 - 火災情報…………… ☎0180-999-999
- 女性相談
 - スピカ…………… ☎24-6180
(水曜と祝日を除く毎日、9時~16時)
- 教育相談
 - 青少年教育センター…………… ☎22-0077
(毎月第2、4木曜の17時30分~
20時30分には、夜間相談も受け付けます)
- エイズ相談
 - 保健所健康づくり課
…………… ☎0120-104-783
- 5月の健康テレホン
 - 県保険医協会…………… ☎23-4300
※3分間のテープで、祝日は前日の内容が流れます
月→眼瞼下垂~目が下がる 火→五月病
水→介護度はどうやって決められるか
木→乗り物酔い 金→タバコと歯周病
土、日→緊急避妊ピル

人のうごき

(4月1日現在)
総人口 238,660人 (-1,718)
男 111,989人 (-1,024)
女 126,671人 (-694)
世帯数 92,230世帯 (-351)

3月中のうごき
 ●転入 1,976 ●転出 3,678
 ●出生 178 ●死亡 194

見て、聞かせせぼ 市政だより

テレビ 毎週土曜日放送(約5分間)
 NBC(9時25分) NIB(11時25分)
 NCC(11時40分) KTN(17時25分)
 ラジオ
 NBC 毎週日曜日 9時10分
 FM長崎 毎週火曜日 9時05分
 FM長崎
 マイシティ
 マイタウン 毎週土曜日 8時55分
 長崎新聞 毎月第2、4水曜日広告欄

人権講演会

~やさしい街 やさしい人~



3月26日、コミュニティーセンターでありました。講師は女優の石井めぐみさん。「計画出産」による事故で、難産の末生まれた息子優斗君は、重度の障害児でした。医学の常識では、生きていてもほぼ植物人間の状態と宣告され、自分では呼吸もできませんでした。なんとか退院した後、あちこちの専門の施設や病院を巡り、リハビリに励みました。でもその母親の強い想いが、子どものストレスとなっていたことを感じ、障害を治すのではなく、障害を感じさせない生き方で、一緒に楽しく過ごすようにと発想の転換を図りました。しかし、のどのおできの手術を受けた後、出血多量が原因でついに亡くなってしまいました。
 手術の最中に優斗君の名前を呼び続ける石井めぐみさん。そのたびに母親の顔を見る優斗君。このとき「この子は本当にこの世に生まれてきて良かったのだろうか」というこれまで心の中でくすぶっていた疑問が晴れたそうです。講演の最後に、「無知が偏見を生みます。障害者を見たら目をそらさないでください。目が合えば困ったときにお願ひすることもでき、触れ合いが始まります」と語りました。終始目頭を押える聴衆。母と子の懸命に生きる姿に、命の大切さを痛感しました。

歴史散歩 454

二宮金次郎像 (口ノ尾町)

三川内小学校の校門脇に「負薪読書の二宮金次郎」像が建っています。木原町の横石政七氏が昭和18年に寄贈されたもので、一見銅像を思わせませんが陶製です。太平洋戦争が始まって金匱が不足し、全国の小学校に置かれていた銅像が供出され、代わって陶像が備前、信楽、唐津などで作られたのです。

水害にあって困窮した家業を助け、燃料の新を背負いながらも本を手離さなかった12歳の金次郎(尊徳)は、青少年の理想像としてお手本となったのです。

天明7(1787)年、今の小田原市で生まれた金次郎は、黙々と努力した陰徳積善が認められ、26歳のとき小田原藩家老の若党に取り立てられました。以



次郎像も、地元有志の世話で校門脇に引越しました。(筒井隆義)

